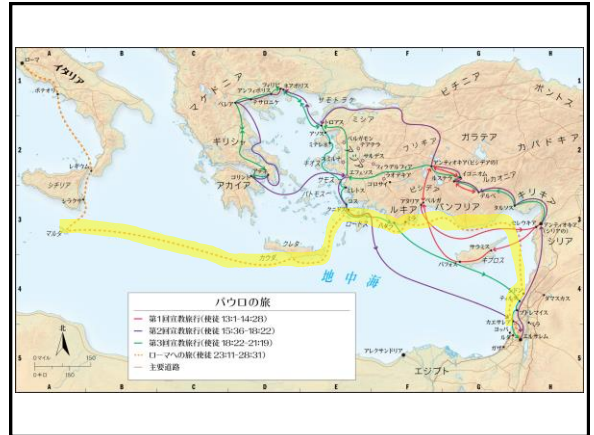


「人生の嵐は必ず来る」

使徒の働き 27章39-44節

1



2

夜が明けたとき、どこの陸地がよく分からなかったが砂浜のある入江が目にとまったので、できればそこに船を乗り入れようということになった。錨を切って海に捨て、同時に舵の綱を解き、吹く風に船首の帆を上げて、砂浜に向かって進んでいった。ところが、二つの潮流に挟まれた浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。船首はめり込んで動かなくなり、船尾は激しい波によって壊れ始めた。兵士たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと図った。しかし、百人隊長はパウロを助けたいと思い、彼らの計画を制止して、泳げる者たちがまず海に飛び込んで陸に上がり、残りの者たちは、板切れや、船にある何かにつかまって行くように命じた。こうして全員が無事に陸に上がった。使徒27:39-44

3

人生の嵐は必ず来る

ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。何度も旅をし川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあい、労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸にいたこともありました。
2コリント11:25-27

4

人生の嵐は必ず来る

- これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。
ヨハネ16:33
- 航海には4つのことが起こり得る。その内の3つは悪いこと。良いことは一つだけ=目的地に無事到着すること。後の3つは、海賊、嵐に襲われる、そして難破してしまうこと。

5

嵐は必ず来る

- 人生の様々な嵐という問題
- 宗教(仏教)は問題(苦しみ)で始まっている。
- キリスト教は答え(神の創造)で始まっている。
- 「初めに神が天と地を創造した」
- 神が始め、治めておられるなら、「いつも喜んでいられる、いつも祈れる、すべてに感謝できる。」
1テサロニケ5:16-18
- 神の支配(国)の中で希望と平安を持って生きられる。
- 神との関係がいのち(永遠の)、その関係に生きる、その関係がすべて。「関係ない」という態度?

6

嵐の中でどうする

- 「ヘブル」の教会も信仰の難破の危機に直面していた。
- 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず、十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。ヘブル12:2
- イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。ヘブル13:8
- イエス様は、不変、普遍(いつでもどこでもいっしょ)インマヌエルの神(神は私たちといっしょ)
- 嵐の中で、イエス様から目(手)を離すな！

7

錨(いかり)を下ろせ

- 5つの錨(いかり) ジョンマーク・ヒックス
- 変ることのない神の愛 十字架
- 神のやさしい招き 詩篇
- 痛みを分かち合ってくださいる神 受肉
- 限りない神の主権 黙示録
- 究極的な神の勝利 復活

8

嵐の主は嵐を用いる

- 嵐に振り回されずに、嵐の主^に治めていただく。
- 嵐はテスト 自分を^{知る} 試みによって「こころみる」心を見る
- 嵐はチャンス(人生には様々な嵐がある)
- 嵐は、人々に仕える機会を与えてくれる。パウロは船の中の人々に仕えた。
- 嵐によって成長する
- 使徒の教会は、試練、苦しみ、嵐を通して成長した。

9

5つの錨を下ろせ

私は、自分の妻の棺の側に立って、神様の愛を疑うことが出来ます。しかし、私は、十字架のもとで、ひざまづきながら神の愛を疑うことは出来ません。(罪により)墮落した世界は、神が本当にこの世のすべてを治めておられるのかどうかを疑わせます。神の主権(力)と思いやり(愛)は、私の身の上に何が起ころうとも、神がそれらを最終的な益のために用いてくださるということの意味する。私には理解できないこともあるが、私は神を信頼します。
「それでも私は神を信じる」(本)ジョンマーク・ヒックス

10